

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成15年10月(2003年) No.454

大盛会のOMC映像発表会

去る10月4日(土曜日)、阿倍野市民学習センターで開催した第43回OMC映像フェスティバル2003は、会場にうしろの方で立見が出るほどの超満員の盛況ぶり、予想以上の観客に感謝感激でした。作品の内容も充実していて好評でした。これも会員諸氏のご協力と、作品づくりへの深い情熱の結果ではないかと感謝いたします。又、当日は何かとお世話いただきました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

今回は遠く四国高松から4名の方々がかけつけて頂いたり、京都、滋賀、和歌山あたりからもご来場を賜り、OMC映像フェスティバルへの期待の大きさというのを感じました。一年はすぐに過ぎてしまいます。来年へ向け、あらたな第一歩を踏み出していきましょう。(合原)

■祝電を頂戴した方々

- ・日本アマチュア映像作家連盟会長 加藤雅巳様
- ・同上 事務局長及び東京アマチュア映像連盟顧問 川上勝悟様
- ・東京映像会長 渡会 猛様
- ・新潟県アマチュア映像連盟会長 河辺明彦様
- ・神戸映像 会員一同様
- ・明石映像クラブ会長 猪飼行幸様
- ・映像銀の会様
- ・ビデオサークル紀南会長 辻 明男様
- ・京都映像サークル会長 鈴木能和様

■ご祝儀を頂いた方

萩葉 勲様 以上有難うございました。
 ご祝電並びにご祝儀を頂いた方々には、早速お礼状を差し上げました。

10月例会のお知らせ

10月例会は、第4土曜日25日18時より、大阪駅前第2ビル5階大阪市立総合学習センターにて開催します。気候もよし、秋たけなわの一夜、例会と二次会で楽しいひと時を過ごしましょう。作品もご遠慮なくお持ちください。

秋・映像発表会ニュース

■映像北大阪・公開映写会。10月19日

(日) 13時。守口文化センターエナジーホールにて

■第6回ビデオサークル堺 発表映写会

10月25日(第4土曜) 13時～16時。

場所：堺市民会館小ホール。OMC例会日と重なりますが、昼間ですので発表会終了後、すぐに梅田の例会場に引き返せば間に合います。上総、河合、森の各氏も発表されますので、時間の都合のつく方は行かれるようお願いいたします。

■大阪アマチュア映像祭

既報の通り開催、11月16日(日) 13時。大阪市立中央図書館講堂にて。OMCほか10のクラブが23作品を発表します。

■神戸映像 発表映写会：10月26日(日)
兵庫県民会館9階ホール(既報)

9月例会レポート

すっかり涼しくなった9月例会は、27日18時よりいつもの梅田の会場で行われましたが、今月は何と30名の会員さんが出席、14本の作品上映で定刻の9時を過ぎるといって大忙しの例会でした。司会は関、書記は合原、デッキ係は河合、増池、受付兼照明係は宮崎、奥の各世話役の担当で開始しました。

■出席者：有村、今井、江村、岡本、奥、上総、紙本、小竹、河合、合原、進藤、関、那須、玉井、中尾、華岡、藤原、松本、宮崎、前田、増池、森下、森田、森口、森、安居、吉岡、渡辺、山本、岩井の30氏。

■作品上映(今月の講評は合原会長です)

1. こいや祭 増池 茂さん 8分10秒

こいや祭りは作者が毎年のように撮影されているテーマ。大阪も本場高知に負けじと頑張っているが、主会場が大阪城公園などの舞台のため、高知のよさこい祭のように街の中に繰り出しての観客との一体感が薄いのはどう仕様もないところ。しかし最後はようやく見る人も加わって盛り上がっていました。BGMとして現録音とは別に流しておられるが、こういう記録ものは、現場音を活かしてBGMは控え目に使うほ

うがよいのでは、と司会から助言がありました。

2. 仏前挙式2 森田光春さん 9分30秒

森田さんにとっては第二の故郷といった感じのタイでの撮影。スタラネという町で仏式による珍しい結婚式の様子が描かれています。お坊さんのお食事の関係で、朝7時から始まるということでした。知人の娘さんの結婚式に招待されて撮影された由で、仏式といっても寺院ではなく自宅で行なわれるとのことでした。その辺りが画面からは少し判りにくかったです。珍しい行事を見せていただきました。

3. ジャスパ国立公園・後編

那須典彦さん 5分0秒

作者には数少ないナレーション入りの海外旅行作品。カナダのジャスパ国立公園は雄大な景色が見る者を圧倒します。

川や滝、その滝のしぶきに架かる虹、コロンビア大氷原、どれも美しい雄大な景観に、さすがカナダの大自然だと、しばし見とれていました。ちなみに、コロンビア大氷原は、雪上バスで往復するため、氷原での時間は15分ほどしかなく、ゆっくり撮影できないのが残念のようです。

4. 出雲阿国(いずもおくに)

紙本 勝さん 7分30秒

8月初めに行なわれた京都での行事を記録されたもの。このテの作品づくりには定評ある紙本さんが、かつて撮られた出雲の映像をうまく活用されてまとめられた作品。歌舞伎の原点とも云われる阿国にちなんだ催しを20倍ズームの威力を発揮されて、川をはさんで遠くからの撮影にも拘わらず、うまく撮影され、立派な作品に仕上げられています。難しいテーマをよくまとめられています。

5. 越中風の盆 小竹 正さん 7分30秒

風の盆も以前は良かったが、現在は人が多くて雰囲気が出るまで出ない、とよく嘆きの声が聞かれます。この作品は3年ほど前に行ったときの映像とのことで、舞台での踊りが主でした。かんじんの町中での撮影は人が多いのと、スチールカメラのフラッシュがパチパチとうるさいので、映像にはならないとは作者の弁。やはり一泊して観

光客の帰った後、夜更けてからの撮影でないとは駄目のようです。

6. 日本タンポポ独り言

安居利次さん 7分0秒

同じ黄色いタンポポでも、日本で古くからあった日本タンポポと、外国から入ってきた西洋タンポポがあるようです。白いのは日本タンポポ、黄色いのは西洋タンポポ、と単純に考えていたのですが、考えを改める必要があるようです。安居さんは、何気ないテーマを取り上げて問題提起と解説をされるので大変勉強になります。

視聴覚教材として立派な作品ですが、一般向け作品という目でみれば、今ひとつ、インパクトに欠けるものがあるのは、こうしたテーマのもつ宿命なのでしょうか。

7. 郡上八幡・水の散歩

森口吉正さん 8分40秒

森口さんが以前から取り組んでおられる名水シリーズの一つです。きれいな水を、地元の人たちが守り、生活の一部として水が使われている様子をよく描いておられます。名水百選の第1号に指定された郡上八幡の湧き水だそうです。町中、水音が聞こえてくるような雰囲気がよく出ていました。

立派な作品ではありますが、森口さんには、こころで一つ、ひとひねりした、或いは別の角度から見た水、というものを映像化してみてもどうか、と司会からの声がありました。難しい課題ですが、ひとつ考えてみてください。

8. ワイド上高地

前田茂夫さん 7分10秒

ワイドモードで撮影した映像を見てほしいと持参されたが、例会場の再生機器が、ワイドに対応していなくて、普通サイズの画面でしか再生できませんでした。ワイド再生するには、撮影したカメラ持参の必要があるようです。見てみたかったのですが残念でした。従って画面は人物など実際よりタテ長の人物として再生されましたが、風景が主なのでそれほど違和感はなく見ることができました。映像は、社員旅行に行かれたときの上高地の風景でした。

9. 天城超え 進藤信男さん 8分58秒

25年ぶりに旧友を訪ねて天城越えで行ったときの記録だそうで、伊豆の踊り子の小説を意識されたか、踊り子の像や文学碑などふんだんに出てきます。こういう作品は、自分は何を主に描きたいかを明確にして作品を作らないと、作品のねらいがはっきりしなくなります。この場合、25年ぶりに旧友に再会することを目的に歩いていくのを描くのか、川端康成の伊豆の踊り子を訪ねて散策するのが主なねらいなのか、或いは新緑の美しい山道をウォーキングする楽しさを描きたいのか、作品構成、脚本を練って編集に着手する必要があるように思いました。きれいな映像なので再挑戦してみてください。

10. 高原の祭り

山本正夢さん 7分0秒

山本さんの映像は、いつも見慣れない異国情緒たっぷりの映像なので、毎回楽しく拝見しています。今度のはチベット高原の理塘という村の祭りの風景です。女性の競馬や、馬上での妙技など、すごい迫力がありません。ラストの風景も印象的でした。

惜しむらくは少し露出オーバー気味のところが多く見られたのと、ラストカットの焚火のカットは無い方がよいのでは、と司会からの助言が寄せられました。

11. 山々と滝へ

有村 博さん 7分41秒

スイス観光作品の一つで、今回は洞窟内での珍しい滝を紹介されています。落差300mの滝は迫力満点でした。その他は、標高2500mのロープウェイ山頂のレストランで朝食をとったのですが、天候不良で残念だったこと、ミュレンの登山電車で行くお花畑や氷河の遠望などがスイスらしい風景をかもし出して、楽しい作品でした。

12. 清姫情炎 岡本至弘さん 11分30秒

作者地元のと歌山県・県民文化祭参加ビデオ映像祭で発表される作品。作者が以前から取り組んでおられるテーマで、豊富な取材映像をもとにまとめられた努力作品です。地元には安珍清姫の物語にちなんで、いろいろな行事があり、それらの映像をうまく1本の作品に仕上げられました。細かい点で司会より有意義な助言がありました。

映像祭の成功を祈ります。

13. YOSAKOI 2003

江村一郎さん 7分14秒

江村さんの故郷、高知に毎年里帰りして撮影して来られ、本場よさこい祭の雰囲気私達に提供して頂き、私達もまた、江村さんの「よさこい祭」には期待感をもって楽しみにしています。今回の2003もカメラを低く構えて上向きに撮影するなどの工夫したカットが見られ、楽しく拝見しました。花火のカットが大幅に取り入れられたのが2003の特徴ですが、音がとぎれとぎれになるのは如何にも残念。それにしても、花火を強調すればするほど、かんじんのよさこい踊りの熱気が薄れてしまうのではと危惧の念を持ったのは私だけでしょうか。

14. 氷河 上総修一郎さん 15分55秒

豪華客船による世界旅行のアラスカ版で今回は氷河にしぼってまとめられた作品。

アラスカの州都、ジュノーの街はずれにあるメンデンホール氷河から始まって、リバード氷河など色々なタイプの氷河がたくさんでてきて、自然の驚異を見ることができました。なかなか崩れそうで崩れない氷河、そして最後にやっと崩れ落ちたので、無事「撮影成功！」された作者のよろこびが伝わってくるようです。

全体として凡そ16分の長さですが内容からいって半分か、せいぜい10分くらいを目途にまとめられた方がよかったのではないかと思います。

以上で上映を終わり、OMC映像フェスティバル開催についてのお手伝いのご協力のお願いで参会し、二次会場へと席を移しました。

プログラム編成の苦勞

合原一夫

毎年、映像発表会の2~3ヶ月前になりますと、プログラム編成について頭を痛める時期となります。

まず、例会作品の中から会員別の作品リストを作り、各会員さんのベストと思われる作品を世話役で選んでいきます。その基

になるのはやはりOMCニュースの講評ですが、強く印象に残った作品は、すぐに思い浮かべるもので期せずして皆が推薦します。また、ご本人の意向も大事なので、作者の意向をふまえた上でリストアップしていきます。

一方、発表のトータル時間は制限がありますので、司会の時間や休憩の時間などを差し引きますと、一応2時間半が目途となります。また、プログラムのハガキにレイアウトしてみますと15作品（今年は16作品）程度が理想的です。

作品の内容、レベルも伝統あるOMCの発表にふさわしいものでなければなりません。近年、会員諸氏の腕もめきめき上がってきましたので、いかに選ぶか、落とすには惜しい作品もあるな、と悩みます。

新人で熱心に制作される方の作品は優先して採用することにしています。

さて、作品が揃った段階で、次は上映順をどうするか、頭を痛めるところです。

映像祭を初めて見る人の立場に立ちますと、レベルの落ちる作品を1番にすえますと、「何だ、つまらない」と帰ってしまう恐れがあります。そこで観客を引き付けるにはトップバッターの作品は非常に重要になります。パンチの効いた迫力ある映像で幕を開けたいものです。その点今回はベテラン那須さんの「今宮戎」は成功したのではないかと思います。

次に観客動員の多いと思われる人の作品は、後半に持っていくように心掛けています。前半に持ってくるとその人の作品を観た人は休憩の時に皆帰ってしまうからです。前半の最後の作品は、後半への期待感を持たせるよう、よい作品が望まれます。また、休憩前の時間が一番観客の多い時間帯でもあります。

また、ナレーションの有無、海外旅行や祭りものなどが続かないよう、等と観客の立場になって配置していきます。

ラスト近くの作品は、映像祭を見終わっての印象がよい感銘と、来てよかったと思って帰っていただけるような作品が望まれます。プログラム編成をどのようにやっているか舞台裏を披露してみました。